

平成28年10月11日
国土交通省
山国川河川事務所

山国川中下流域水利用連絡協議会代表幹事会(第2回)の開催について
～今回の渇水対応を振り返って、意見交換を実施します!～

山国川流域では、8月以降の少雨により渇水状況となり、耶馬溪ダムからの渇水補給や利水者による自主節水等の渇水対策を行ってきました。9月上旬以降の降雨により、9月中旬には耶馬溪ダムの貯水量及び河川流況が回復し、山国川河川事務所においても、渇水対策支部を解散したところです。

今回の渇水対応を振り返り、各利水者が行った渇水対応等について意見交換や情報交換を実施するため、下記のとおり山国川中下流域水利用連絡協議会代表幹事会(第2回)を開催します。

記

1. 日時 平成28年10月13日 15時30分～
2. 場所 国土交通省 山国川河川事務所 1F会議室
(大分県中津市大字高瀬1851-2)
3. 議題
 - ①今回の渇水状況結果報告
 - ②意見交換・情報交換
 - ③その他
4. 取材について
報道機関へのみの公開となります。
テレビカメラ等による撮影は、協議の妨げにならないよう
ご配慮願います。

問い合わせ先

山国川中下流域水利用連絡協議会事務局
国土交通省山国川河川事務所(電話0979-24-0571)
技術副所長 篠原 昌秀(内線204)
管理課長 麻生 英介(内線331)

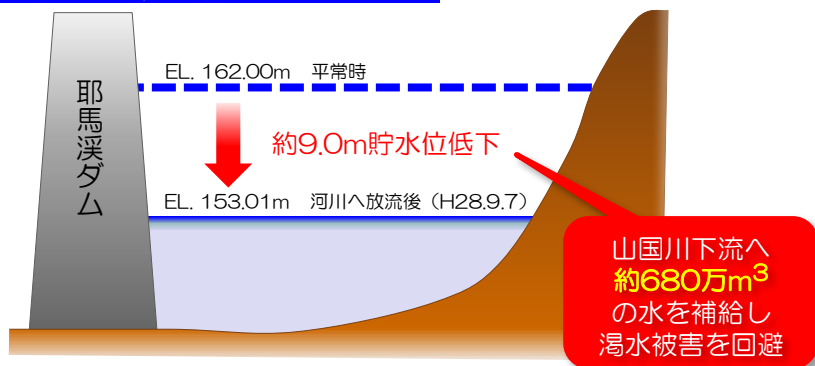
耶馬溪ダムから約680万m³の水を補給

※25mプール 約17,000杯分

山国川流域では、平成28年7月の梅雨明け以降まとまった降雨が無く、特に8月の山国川流域の降水量は例年の約34%※1程度にとどまり、河川の水が減少傾向にありました。 ※1) 平成元年の8月のダム流域平均雨量が平均197mmに対し、平成28年8月の雨量は67mm

その結果、上水道・工業用水・農業用水等の水利用に支障を来す恐れが生じたため、耶馬溪ダムでは8月1日より山国川下流へ向けて、延べ36日間にわたり約680万m³（25mプール約17,000杯分※2）の水を補給しました。 ※2) 一般的な25mプールの容量を400m³として計算
耶馬溪ダムからの補給に加え、利水者の自主節水努力により、市民生活への支障など漏水被害が発生することはありませんでした。

平成28年の渇水について



7月中旬の梅雨明けからの少雨による下流地域の水不足に対し、耶馬溪ダムから補給を開始しましたが、ダム貯水率が低下したため、「山国川中下流域水利用連絡協議会」を開催し、今後の水利用について協議を行い、渇水への対応を図りました。協議の結果、8月23日～9月13日までの22日間、井戸等の水源を活用する等、極力河川水を取水しないよう利水者により自主節水がなされました。（上水道10%、工業用水70%、農業用水20～30%）

●補給前後のダム湖の様子

ダム湖(平常時)H28.4.28



ダム湖(補給後)H28.9.7



ダム補給が無い区間の河川状況(H28.8.18)



ダム補給後の河川状況(H28.8.24)



耶馬溪ダムからの補給により河川の水量を維持し渇水被害を回避

ダムからの補給で水不足を解消したことにより、感謝の言葉も寄せられました

荒瀬井堰土地改良区 関係者

- 昔は毎年のように下流地域の水不足による紛争が絶えず、渇水時には当番制で取水管理を行い大変だった。ダム完成後は回数が減りとても楽になった。
- 特に、昭和33年の渇水では取水の取締りを強化するとともに、受益地の上流と下流へ水を流す分水施設を時間毎に切り替える対応などで苦労した。

大井手堰土地改良区 関係者

- ダムができてからは水不足でほとんど困っていない。
- 雨が少なかった8月は水稻にとって水が必要な時期であったが、ダムが補給を続けてくれたことにより水不足にならず、何とか渇水を乗り切ることができ、収穫量の減などはなかった。毎年ダムの恩恵を感じる。



渇水について語る地元関係者